

## 1 題材について

対 象 学 年	中学校 第1学年
学 習 指 導 要 領	第1学年の内容 A表現(1)ア、イ、ウ B鑑賞 ア
題 材 名	「自分らしさのある手」 (全14時間)
題 材 目 標	<p>自分の手を深く観察し、手の形の美しさに気付き、関心をもって、自分らしい表現をしようとする。 【美術への関心、意欲、態度】</p> <p>自分らしい表現のために、自分の特徴や個性を感じ取り、構想を練ることができる。 【発想や構想の能力】</p> <p>観察したことから、立体としての量感や動勢、均衡を踏まえて表現することができる。 【創造的な技能】</p> <p>作品の表現意図や表現方法を理解するとともに、形や色の美しさを感じとることができる。 【鑑賞の能力】</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材の指導計画作成における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彫刻の基礎的・基本的な内容をより具体化し、単位時間における指導内容を明確にする。</li> <li>・手のデッサンを繰り返し行うことで、形を深く見つめる力、考察する力が身に付くようにする。</li> </ul> <p>単位時間における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の課題や自己評価を把握し、より具体的な評価規準をもとに、個に応じた指導を重視する。</li> <li>・表現方法を理解するために、具体的な資料を準備し、形のバランスや大きさをとらえさせ、主題を追究させるようにする。</li> <li>・個別指導を重視し、形のとらえ方や主題にせまる表現方法が確実に身に付くようにする。</li> </ul>
参 考 資 料	<p>資料1：鑑賞資料・・・高村光太郎「手」、生徒作品</p> <p>資料2：指導資料・・・部分の形を明確にしたもの（手首、手のひら、指）</p> <p>資料3：指導資料・・・全体のバランスを理解できるもの</p> <p>資料4：自己評価表</p>

2 題材の評価規準

	a 美術への関心・意欲・態度	b 発想や構想の能力	c 創造的な技能	d 鑑賞の能力
内容のごまとめのま評り価規準	<p>【表現】 自然や身近なもののよさや美しさ、表現方法などに関心をもち、意欲的に美術の基礎能力を身につけようとし、それを生かして楽しく表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい美術を愛好していこうとする。</p> <p>【鑑賞】 自然、美術作品や生活の中の造形などの鑑賞に親しみ、意欲的によさや美しさなどを味わったり作品などに対する理解や見方を広げたりして、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする。</p>	<p>ものの見方、感じ方を深め、感性や創造力を働かせて自然や身近なものを深く観察しよさや美しさなどを感じ取ったり気付いたりして、想像力を働かせ豊かに発想し構想する基礎的能力を身につけ、形や色で美しく生き生きと表す表現の構想をする。</p>	<p>観察やスケッチする力、形体や色彩の表し方、材料や用具の生かし方などの基礎的スキルを身に付け、感性や創造力、造形感覚などを働かせ、表現意図に合う多様な表現方法を創意工夫し、美しく表す。</p>	<p>感性や創造力を働かせ、作者の心情や意図と表現の工夫、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わい、美術作品や生活の中の造形などについて見方を広げたり、生活における美術の働きについて理解したりする。</p>
題材の評価規準	<p>【表現】 自分の手の形をよく観察し、形的美しさや表現方法に関心をもち、自分らしさを表現しようとする。</p> <p>【鑑賞】 作者の意図や表現の違いに気づき、作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ろうとする。</p>	<p>自分の手の形の特徴をとらえ、手の美しさや力強さを感じとりながら、自分らしい表現の構想をする。</p>	<p>観察やスケッチを通して、手の形やバランス、量感をとらえ、自分の主題に合う立体表現の方法を工夫する。</p>	<p>感性や想像力を働かせ、作者の意図や表現方法の工夫、多様な表現方法を理解し、作品のよさを味わう。</p>
単位時具間体にお評価規準	<p>自己の生活を見つめ、自分らしい表現のための主題をもつ。</p> <p>自分らしい表現方法の創意工夫をしようとする。</p> <p>作品の鑑賞を通して、作品のよさや表現の意図を感じ取ろうとする。</p>	<p>自分らしさを表現できる形や構成の仕方を考える。</p> <p>自分らしい表現のための表面を工夫する。</p>	<p>手のもつ美しさや特徴を感じとり、スケッチする。</p> <p>手の全体のバランスや部分の特徴をとらえて表現する。</p> <p>全体のバランスや立体としての量感を感じ取りながら表現する。</p> <p>部分の特徴や感じをとらえて粘土づけをする。</p>	<p>立体作品の美しさや表現の意図を理解する。</p>

3 指導と評価の計画（全14時間）

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	作家の作品や生徒作品を鑑賞し、自分の作品の主題をもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>手で何を表現するか、主題を決める。</p> </div> <p>参考作品から彫刻のよさを感じ取る。 自分の生活を見つめ、主題をもつ。 学習ノートに自分の思いをまとめる。</p>	<p>&lt; d - &gt; 立体作品の美しさや表現の意図を理解する。</p> <p>&lt; a - &gt; 自己の生活を見つめ、自分らしい表現の主題をもつ。</p>	<p>発言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の主題を感じ取りながら鑑賞しているか。</li> <li>・学習ノート</li> <li>・自分なりの思いがもっているか。</li> </ul>	<p>作者の意図が現れている作品を提示し、自分の作品に結び付けられるようにする。</p>
2 3	手のスケッチを通して、主題にせまる表現の構想をねる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>主題にせまる手の形を考える</p> </div> <p>片手、両手など表現方法の多様性を理解する。 主題に合う表現方法をスケッチによって追究する。</p>	<p>&lt; b - &gt; 自分らしさを表現できる形や構成の仕方を考える。</p> <p>&lt; a - &gt; 自分らしい表現方法を工夫しようとする。</p>	<p>スケッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題を明確にしようとしているか。</li> </ul> <p>スケッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し追究しようとしているか。</li> </ul>	<p>個々の思いを探り、主題に合った表現方法を明確にする。</p> <p>多様な方向からのスケッチをさせ、発想を広げる。</p>
4 5 7	主題にあった作品のための芯をつくる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>できあがる作品の全体像を予想しながら、芯をつくる</p> </div> <p>作品の大きさを考えて、台座の形と大きさを決める。 手首、手のひら、指のバランスを考えて部分をつくる。 台座から部分を組み合わせて全体をつくる。 生徒の交流の中で、形やバランスを確かめる。</p>	<p>&lt; c - &gt; 手のもつ美しさや特徴を感じ取りスケッチする。</p> <p>&lt; c - &gt; 手の全体のバランスや部分の特徴をとらえて表現する。</p>	<p>作品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体像がイメージされているか。</li> </ul> <p>作品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部分の特徴やバランスがとらえられているか。</li> </ul>	<p>全体像がイメージできるスケッチをさせておく。 手首、手のひら、指のバランスがより明確に理解できる資料を提示する。 交流の中で形やバランスを確かめさせる。</p>
8 9 10	手の量感を感じ取りながら粘土のあら付けを	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>手の特徴をとらえながら、粘土づけをする</p> </div>	<p>&lt; c - &gt; 全体のバランスや立体としての量</p>	<p>作品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部分にとらわれず、全体の量感を</li> </ul>	<p>大きな固まりとして、比較のなかで形をとら</p>

11	する。	<p>作品全体の量感をつかむ。 手首、手のひら、指の大きさのバランスをつかむ。</p> <p>手の特徴を見つけ、より効果的な粘土づけをする。</p>	<p>感を感じ取り表現する。</p> <p>&lt; c - &gt; 部分の特徴や感じをとらえて粘土づけをする。</p>	<p>表現しているか。</p> <p>作品 ・関節などの特徴をとらえているか。</p>	<p>えさせる工夫をする。</p> <p>参考資料として、指の特徴のわかるものを提示する。</p>
12 13	<p>作品の表面を整えて、形を仕上げる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>主題にあった形の仕上げする。</p> </div> <p>作品の表面の表現方法の多様性を理解する。 自分の主題にあった表現方法を選択する。</p>	<p>&lt; b - &gt; 自分らしい表現のための表面を工夫する。</p>	<p>作品 ・自分なりの選択ができているか。</p>	<p>力強さやなめらかさの理解できる参考作品の提示する。</p>
14	<p>自分の作品や友達の仕事のよさを感じとることができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分や友達の仕事の表現の違いやよさをあじわう。</p> </div> <p>互いの仕事を鑑賞しあい、よさをみつける。 自分の仕事のよさや工夫した点をまとめる。</p>	<p>&lt; a - &gt; 仕事の鑑賞を通して、仕事のよさや表現の意図を感じ取ろうとする。</p>	<p>発表、ノート ・仕事のよさをみつけようとしているか。</p>	<p>互いの仕事のよさや美しさを感じ、認め合えるような指導をする。</p>

#### 4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

・手の構造（骨組み）を観察し、関節の位置や全体のバランスを考えながら、針金を切ったり曲げたりする中で、自分のテーマに合った芯をつくる。

(2) 本時の位置 6 / 14 時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
導 入	<p>手の構造（骨組み）を見て、気付いたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指の骨は3本からできているが親指だけは、2本できている。</li> <li>・中指が最も長く、親指が最も短い。</li> <li>・太さがそれぞれちがっている。</li> <li>・指の先に行くにしたがってだんだんと短くなっている。</li> <li>・手のひらのなかの骨の長さは、指の骨と同じくらい。</li> <li>・ゆびの関節は半分くらいに短くなる。</li> </ul>	<p>【関心・意欲・態度】 手の構造を確認し、自分なりに気づき、考えがもてる。</p> <p>[挙手、発言] 他者の見方、考え方と比較しながら自分の考えをもつ。</p> <p>[学習ノート]</p>	<p>手の構造や骨組みのわかる資料によって、自分で調べたこと振り返らせる。</p> <p>生徒の意見を多く取り上げると同時に生徒が気付かないことにも目を向けさせる。</p> <p>C段階、自分なりの考えがもてない生徒に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見解から具体的な方向が見いだせる補助発問をする。</li> <li>・正しい道具の使い方を指導する。</li> </ul>
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>手の中の骨の長さを考えながら、芯をつくろう</p> </div> <p>針金の長さや曲げる位置を明確にする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手首の始まる位置と指のはじまる位置を決める。</li> <li>・それぞれの関節の位置で針金を曲げ、角度をつける。</li> <li>・針金の長さが適当かを再度確かめる。</li> </ul> <p>針金の曲げる角度と方向によってをつくりあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多方面から、形を観察することによって、立体としての特徴をとらえる。</li> </ul>	<p>&lt; c - &gt; 手の全体のバランスや特徴をとらえて表現する。 [作 品]</p> <p>&lt; A 規 準 &gt; 手のひら、指、手首の割合を正確にとらえ、骨組の段階で手の動きが感じられる。</p>	<p>ペンチ、太い針金 細い針金の使用方法 個別指導の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のテーマや形が明確になっているか。</li> <li>・全体の大きさがイメージされているか。</li> <li>・台座からの角度を意識しているか。</li> <li>・手首の位置、指の位置が明確にされているか。 Cと判断される生徒、手首、関節の位置が明確でない生徒に対して</li> <li>・具体的に自分の手と比較させ、位置を確認させる。 班の中での交流がスムーズ行われるような配慮する。</li> </ul>
まとめ	<p>仲間との交流の中で、よさをみつけると同時に問題点を探る。 本時の評価と今後の課題を明確にする。</p>	<p>【鑑賞の能力】 仲間の考えを自分の課題の中に生かす。 [学習ノート]</p>	<p>自分の作品を振り返らせ学習ノートに記入をさせる。</p>

## 5 評価の実際と個に応じる指導事例

### (1) 本時重点に取り上げた評価規準

< C - 2 >

手の全体のバランスや部分の特徴とらえて表現する。

### (2) 評価の実際

#### 【評価の方法】

- ・手のひらのスケッチをもとに、手首、手のひら、指の長さの割合をつかむことができるか。(スケッチ)
- ・スケッチからつかんだ割合をもとに、正しい位置で針金を曲げているか。(作品)
- ・曲げる方向が自分のイメージした形に合っているか。(作品及びスケッチ)

#### 【判断の事例】

- ・手の骨格が意識され、部分の割合が正確で、主題に合う手の動きが表現されている生徒を A と判断
- ・関節の長さの割合をほぼ正確に表現されている生徒を B と判断
- ・関節の長さの割合が理解できず、手の形ができない生徒を C と判断

### (3) 個に応じた指導の実際 (B に達しなかった生徒に対して)

- ・つまずきの傾向と具体的な援助

手のひらの中にある骨が意識できず、手のひらと指の長さの割合が表現できない。

手のひらの中に骨をスケッチさせ、その骨の長さと指の長さを比較させる。その中で中心にある、手のひらの骨の長さと中指の長さがほぼ同じであることに気づかせ、スケッチの中に記入させる。

針金を曲げる時に、関節が意識できず、角度がなく曲がっているだけになってしまう。

針金にマジックで曲げる位置を書かせる。マジックで書かれた線をペンチのもとで握らせはつきりと角度をつけさせる。

曲げる方向がばらばらで手の正しい形ができない。

自分の手を作品の横に並べさせ、いろいろな方向から見比べさせることで、手のひらや指の正しい方向を見付けさせる。